

製品名: RyR-2 (リン酸化 Ser2808) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05399**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	RYR2
別名	RYR2; Ryanodine receptor 2; RYR-2; RyR2; hRYR-2; Cardiac muscle ryanodine receptor; Cardiac muscle ryanodine receptor-calcium release channel; Type 2 ryanodine receptor
遺伝子 ID	6262.0
SwissProt ID	Q92736
免疫原	抗血清は、Ser2808 のリン酸化部位周辺のヒト RyR2 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 2774-2823

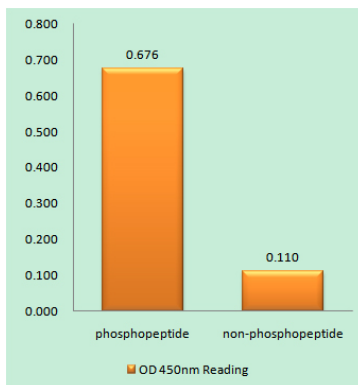
背景

この遺伝子は、心筋筋小胞体に存在するリアノジン受容体をコードしています。コードされているタンパク質は、リアノジン受容体タンパク質の四量体と FK506 結合タンパク質 1B タンパク質の四量体からなるカルシウムチャンネルの構成要素の一つであり、心筋にカルシウムを供給します。この遺伝子の変異は、ストレス誘発性多形性心室頻拍および不整脈性右室異形成症と関連しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、発達段階：妊娠中に子宮筋層で発現します。、疾患：RYR2 の欠陥は、カテコールアミン誘発性多形性心室頻拍 1 型 (CPVT1) [MIM:604772] の原因です。CPVT1 はストレス誘発性多形性心室頻拍 (VTSIP) としても知られています。CPVT1 は、ストレス誘発性の双方向性心室頻拍を特徴とする常染色体優性遺伝性の不整脈性疾患であり、心停止や突然死に至る可能性があります。疾患：RYR2 の欠陥は、家族性不整脈性右室異形成症 2 (ARVD2) [MIM:600996] の原因であり、不整脈性右室心筋症 2 (ARVC2) としても知られています。ARVD は、右室心筋の部分的な変性、電気的不安定性、および突然死を特徴とする常染色体優性疾患です。臨床的には、心電図および血管造影の基準によって定義されます。病理学的所見は、心室心筋が脂肪および線維性要素に置換したもので、主に右心室自由壁を侵します。機能：横行尿管と筋小胞体間の連絡。心筋の収縮は、T 管の脱分極に続いて横行結節 (SR) からカルシウムイオンが放出されることで誘発されます。誘導：TGF- β による。、その他：リアノジンは、SR 接合部の Ca 放出チャンネルに結合し、その活性を調節するアルカロイドです。、その他：カルシウム放出チャンネルの活性は C 末端領域に存在し、タンパク質の残りの部分は SR と T 管の接合部間隙にまたがる「足」構造を構成します。足構造はジヒドロピリジン受容体の細胞質領域と相互作用する可能性があります。、その他：カルシウム放出チャンネルは、カルシウムイオン、マグネシウムイオン、ATP、およびカルモジュリンによって調節される。、オンライン情報：リアノジン受容体エントリ、オンライン情報：RYR2 エントリ、類似性：リアノジン受容体ファミリーに属する。、類似性：2 つの EF ハンドドメインを含む。、類似性：3 つの B30.2/SPRY ドメインを含む。、類似性：5 つの MIR ドメインを含む。、サブユニット：ホモテトラマー、組織特異性：心筋、脳 (小脳および海馬)、および胎盤。、

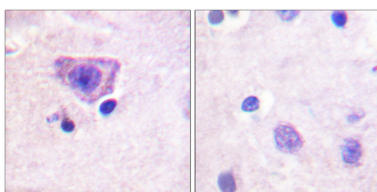
研究分野

カルシウム;心筋収縮;肥大型心筋症 (HCM);不整脈性右室心筋症 (ARVC);拡張型心筋症;

画像データ



RyR2 (リン酸化 Ser2808) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



RyR2 (リン酸化 Ser2808) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。